

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	准教授 吉水清孝	1学期	火	3
<p>◆ 講義題目                                   インド哲学文献講読</p> <p>◆ 到達目標                                   サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法  バラモンの諸学派のうち最もヴェーダの伝統を重んじたミーマーンサー学派では、ヴェーダ文の解釈を通じて、言語の機能についての考察を深めた。今学期は、『ミーマーンサー・スートラ』第1巻第1章へのクマーリラ註の一部を読み、各種の知識手段と言語による認識に関する基本的学説がどのように形成されたかを考察する。</p> <p>◇ 成績評価の方法                       (○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]</p> <p>◇ 教科書・参考書                       コピーを配布する。</p> <p>その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	准教授 吉水清孝	2学期	火	3
<p>◆ 講義題目                                   ヒンドゥー教神話文献講読</p> <p>◆ 到達目標                                   サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法  ヒンドゥー法典を代表する『マヌ法典』には数多くの註釈が書かれたが、Medhātithi の註釈は、全体が現存する註釈としては最も古く、また詳細である。今学期は、『マヌ法典』第2巻冒頭にある法源論への Medhātithi 註を読み、社会生活における規範の根拠を中世のインド知識人がどのようにとらえていたかを考察する。</p> <p>◇ 成績評価の方法                       (○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]</p> <p>◇ 教科書・参考書                       コピーを配布する。</p> <p>その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	准教授 吉水清孝	1学期	火	5
◆ 講義題目	ヴェーダ文献講読				
◆ 到達目標	リグヴェーダの講読を通じて、文献学、言語学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド最古の文献リグヴェーダの研究。今学期は第Ⅶ巻を取り上げる。Geldner, Grassmann, Mayrhofer, AiGはじめ、基本文献、二次文献を活用できるよう努めること。				
◇ 成績評価の方法	(○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	准教授 吉水清孝	2学期	火	5
◆ 講義題目	ヴェーダ文献講読				
◆ 到達目標	リグヴェーダの講読を通じて、文献学、言語学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド最古の文献リグヴェーダの研究。今学期は引き続き第Ⅶ巻を取り上げる。Geldner, Grassmann, Mayrhofer, AiGはじめ、基本文献、二次文献を活用できるよう努めること。				
◇ 成績評価の方法	(○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	准教授 吉水清孝	1学期	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教神話文献講読				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヒンドゥー教神話の一般的設定では、シヴァ神は女神パールヴァティーとの間に、息子としてスカンダ（韋駄天）をもうけることになっているが、初期ヒンドゥー教文献でのスカンダの出生はきわめて複雑である。今学期は、前年度に引き続きスカンダの出生を詳しく物語る現存最初の文献である叙事詩『マハーバーラタ』第3巻の該当箇所を講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 II	2	准教授 吉水清孝	2学期	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教神話文献講読				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。既存の日本語訳がないものを取り上げるが、英訳を配布し批判的に検討する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>『ヴィシュヌ・プラーナ』は、ヴィシュヌ信仰を一貫して説く比較的成立の早いプラーナであるが、編纂者はオーソドックスなバラモンであり、その第三巻では、四ヴェーダの伝承に関する伝説を集成している。今学期はこの章を読み、古代聖典ヴェーダが、中世の時代にどのように継承されたかを考察する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 I	2	教授 桜井宗信	1学期	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。				
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ % ] ・ ( ) リポート [ % ] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37				
その他：履修者は古典チベット語初級文法の既習者であることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 II	2	教授 桜井宗信	2学期	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	引き続き bSod nams rtse mo の『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ % ] ・ ( ) リポート [ % ] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37				
その他：履修者は古典チベット語初級文法の既習者であることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 Ⅲ	2	非常勤 講師	生 井 智 紹 (高野山大学教授)	集中		
◆ 講義題目	菩提心思想の展開					
◆ 到達目標	後期密教に至るまで大乘仏教の核にある菩提心思想を系統的に概観する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>インド初期大乘から後期密教までの菩提心思想を、特に『華嚴経』、『大日経』などの各展開段階の主要テキストをたどりながら、系統的にとらえてみたい。最終的にはサンスクリット原典・チベット語・漢訳の資料を利用しながら、『菩提心離相論』のテキスト演習も行うつもりである。</p>					
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ % ] ・ (○) リポート [70%] ・ (○) 出席 [30%] ( ) その他 (授業中に示される理解度) [ % ]					
◇ 教科書・参考書	テキスト・資料は講義ノートのプリントを配布する。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 研 究 演 習 Ⅰ	2	教授	桜 井 宗 信	1 学期	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読					
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるといいうインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>					
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ % ] ・ ( ) リポート [ % ] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]					
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y.Ejima, 山喜房仏書林.</li> <li>・ チベット語訳：デルゲ版 (台北刊本は誤りを含み要注意) 及び北京版を使用.</li> <li>・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎釈論』(真諦訳) .</li> </ul> <p>※ 『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>					
その他：履修者は、サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であることが望ましい。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド仏教史研究演習Ⅱ	2	教授 桜井宗信	2学期	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるといいうインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [ % ] ・ <input type="checkbox"/> リポート [ % ] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [70%] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・ 梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y.Ejima, 山喜房仏書林。 ・ チベット語訳：デルゲ版（台北刊本は誤りを含み要注意）及び北京版を使用。 ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎積論』（真谛訳）。 ※ 『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：履修者は、サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であることが望ましい。					